

NS形ダクタイトイル管解体器具

NSリーダー解体器具

取扱説明書

φ75～φ450用



ご使用前に必ずお読みください

購入年月日： _____ 年 月 日

お買い上げ店名： _____

—お願い—


- この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
- 安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
- この取扱説明書は、お使いになる方が必要なときにいつでも見られるところに大切に保管してください。


この取扱説明書は、NSリーダー解体器具を正しく、安全に使用していただくための作業手順と注意事項を記載したものです（誤った使用法は、事故・けがの原因となります）


本取扱説明書は、NS形ダクタイトイル管の接合及び解体要領そのものに関しては、お客様が理解されているものとした上で、解体器具の説明と注意に限定しています



*本書の記載事項は、予告無く変更することがあります。（160315）

○安全にご使用頂くための注意事項

 **警告** 誤った取り扱いをした時に、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

 **注意** 誤った取り扱いをした時に、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び、物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので必ず守ってください。

 警告	
○	作業の際は安全靴・ヘルメット・保護手袋等を着用して下さい
○	接合器具を取り付ける場合は、手足や衣服等挟まないよう注意して下さい
○	鎖取付部を確実に固定しているか確認して下さい
○	レバーホイストを取り付ける場合は、接合器具のフックに確実に掛けて下さい
○	レバーホイストには、決められた荷重のものを使用して下さい
○	管の接合又は解体以外の使用は避けて下さい
○	レバーホイストには、規定以上の荷重をかけないで下さい
○	管や接合及び解体器具を持ち運びする場合、手を挟んだり、足に落としたりしないように注意して下さい。
○	管の解体以外の使用は避けて下さい
○	管や接合及び解体器具を持ち運ぶ場合は、ガイドとシャフトの間に手を挟まないように、ひも等でしばり固定するか、個々に運ぶようにして下さい
○	使用前には、必ず接合又は解体器具の点検を行い、ひび割れ、変形、破損等あるいは部品欠陥等の異常な個所があれば、使用をやめて下さい
○	使用中にひび割れ、変形、破損等あるいは部品欠陥等の異常な個所があれば、直ちに使用をやめ弊社に修理を依頼して下さい
 注意	
○	本製品はNS形ダクティル管専用の解体器具です。器具やパイプの破損の原因となりますので、NS形ダクティル管以外の解体には絶対に使用しないで下さい。
○	必ず接合器具の連結鎖長さを管の口径に合うように調整してから使用して下さい
○	接合器具をセットする場合、出来るだけ鎖に弛みのないようにして下さい
○	接合時は片引きにならないように、各レバーホイストを均等に操作して下さい
○	レバーホイストを取り外す時、器具が滑る場合がありますので注意して下さい
○	解体時に管の外面塗装を損傷した場合は、専用の補修用塗料で補修して下さい

(目次)

1. NSリーダー解体器具の各部名称と 解体に必要な他の器具	3
2. 解体作業(φ75～φ450)	11
2.1 直管の解体	11
2.2 異形管の解体	14

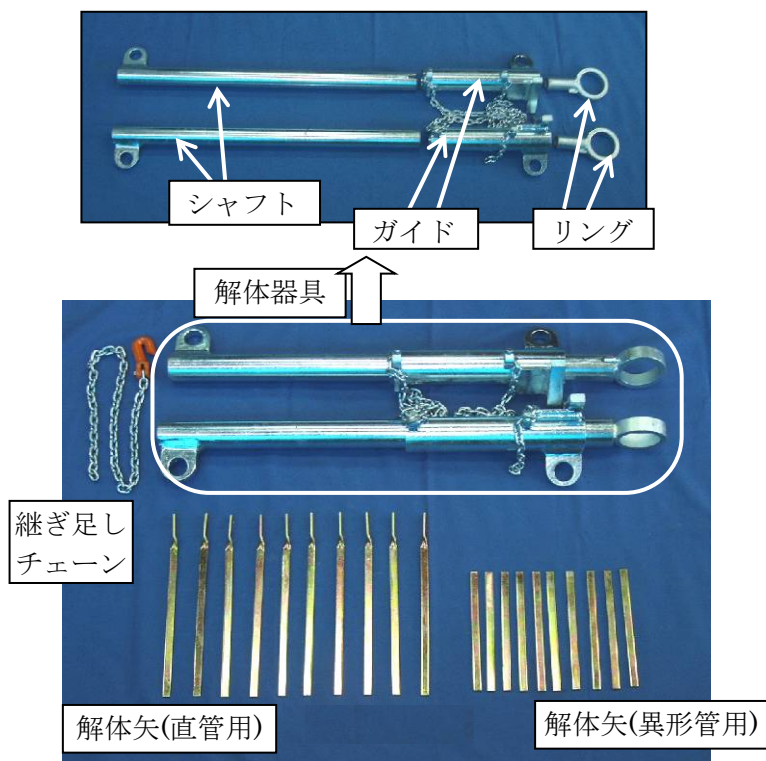
NSリーダー解体器具と解体作業に必要な他の器具

作業名	継手部		各口径の解体作業に必要な器具					
	受口側	挿し口側	φ75～150	φ150～250	φ300	φ350～450		
解体	直管 〔 接合直後 (滑剤あり) 〕	直管	①解体器具 ②接合 I ③レバ I 又はレバ II	①解体器具 ②接合 I 又は接合 II ③レバ I 又はレバ II	①解体器具 ②接合 I 又は接合 II ③レバ I 又はレバ II	①解体器具 ②接合 II ③レバ II		
		異形管						
	異形管	直管			不要 (φ300～450のNS形異形管の受口は メカニカル継手になります。解体 時に必要な工具は「NS形ダクタイ ル管接合要領書」をご参照下さい。)			
		異形管						

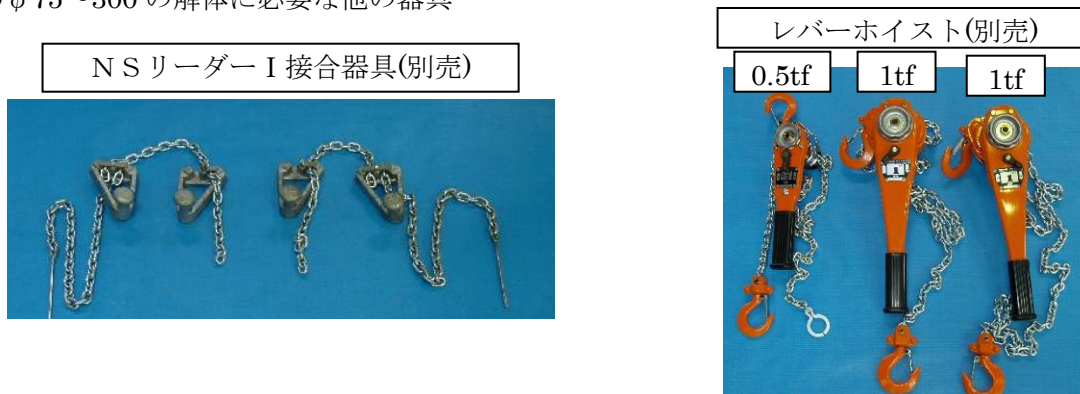
- 凡例
- 解体器具：NSリーダー解体器具（本製品）
 - 接合 I：NSリーダー I（接合器具）
 - 接合 II：NSリーダー II（接合器具）
 - レバ I：NSリーダー I に使用するレバーホイスト(1tf×2個、0.5tf×1個)
 - レバ II：NSリーダー II に使用するレバーホイスト(2tf×2個、1tf×1個)

1. NSリーダー解体器具の各部名称と解体に必要な他の器具

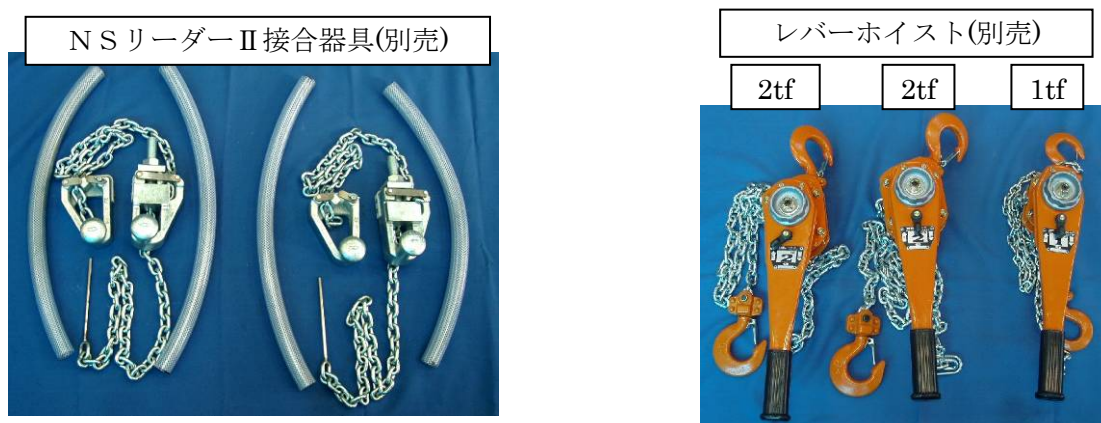
(1) 解体器具



(2) φ 75～300 の解体に必要な他の器具



(3) φ 350～450 の解体に必要な他の器具(φ 150～φ 300 にも使用できます)



2. 解体作業（φ75～450）

⚠ 警告

本解体器具は、接合直後に解体する場合にのみ口径φ75～φ450の範囲で適用することができます。既設管の解体等、継手の滑剤がない状態では解体力が大きくなり、レバーホイストを用いた本方法での解体ができません（無理な負荷をかけるとレバーホイストが破損し、事故につながります）。このような場合は、NS形ダクタイトル管の接合要領書に記載してある通り、特殊押輪と油圧ジャッキなどを使用して解体して下さい。

⚠ 注意

接合器具又はレバーホイストは、解体をする口径にあったものを必ず使用して下さい（P1～2参照）。なお、本取扱説明書の写真はφ450の場合を示しています。

2.1 直管の解体

- ①解体矢の使用本数は8～12本です。（必要に応じて、本数を増やして下さい）
- ②解体矢に滑剤を塗布し（写真1）、**解体矢を接合要領書に記載してある方法で打ち込み**ます。この時、写真2の様に打ち込み補助具（現場製作）を使用すると打ち込み易くなります。

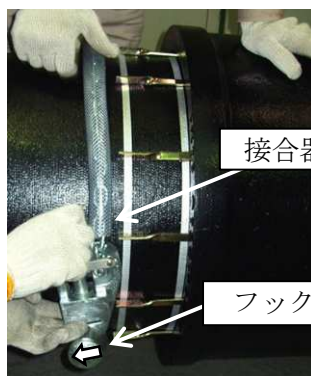


写真1 解体矢への滑剤の塗布



写真2 解体矢の打ち込み

- ③写真3のように、接合器具のフックが管の中心になるように連結鎖長さを調整した後（NSリーダーI又はNSリーダーIIの取扱説明書を参照下さい）、フックの矢印を外向き（継手方向の反対側）にして**接合器具を挿し口に取り付け**ます。また、接合器具は受口に近づけて取り付けて下さい。



接合器具を受口に近づける

フックは管の中心(矢印は外向き:継手方向の反対側)

写真3 接合器具の取り付け（解体準備）

④写真4のように、解体器具のガイドを調整します。

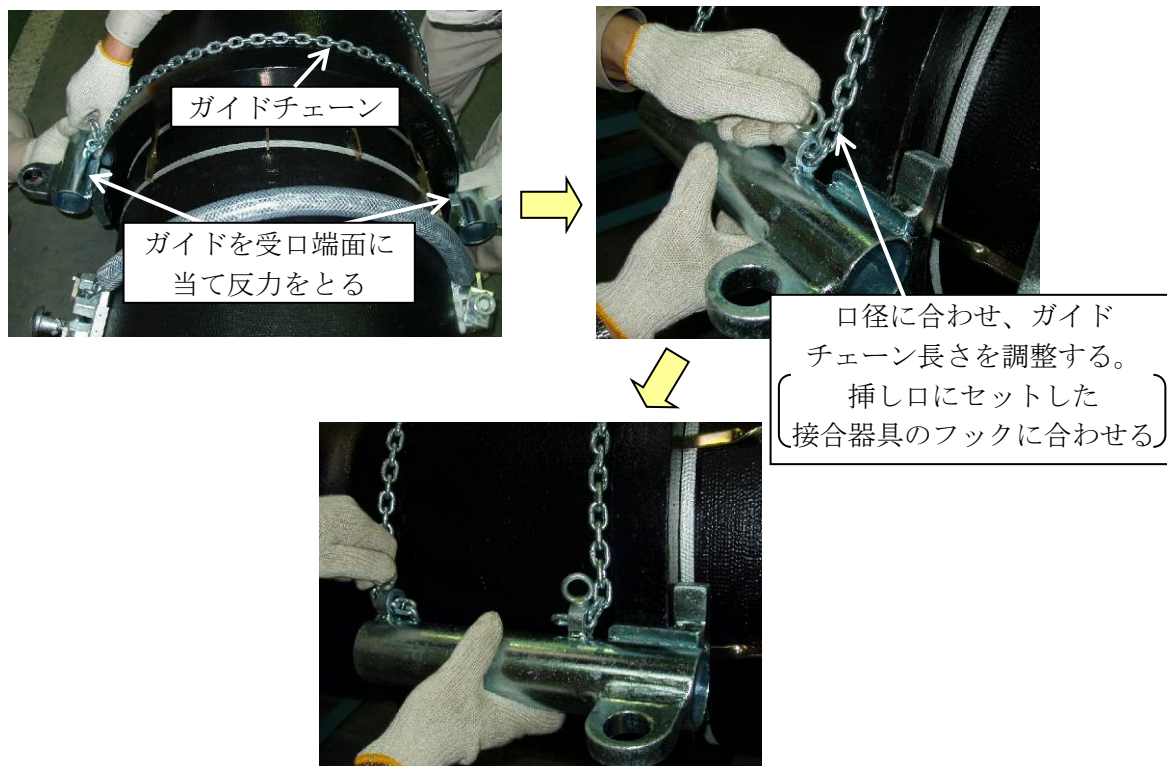


写真4 解体器具のガイドを調整

⑤写真5のように、解体器具を管体にセットします。

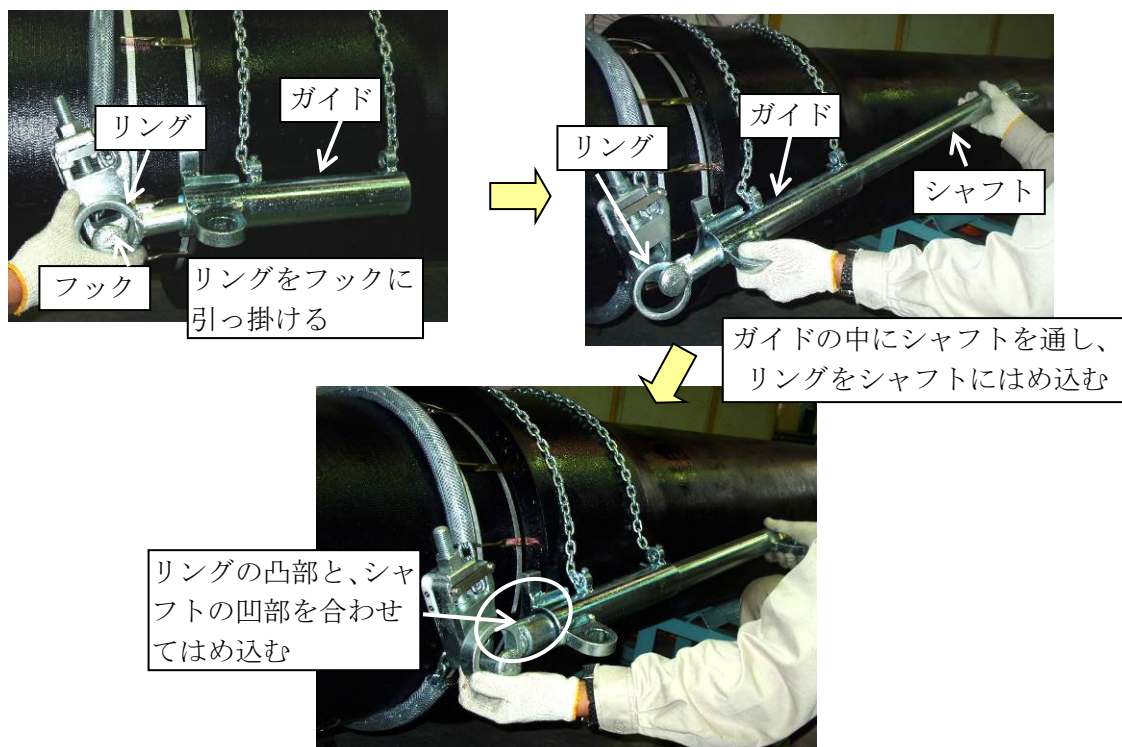


写真5 解体器具のセット

※ライナーをセットした直管受口の解体も、通常の直管と同様の手順で解体して下さい。この場合、解体矢は異形管用解体矢(短い方)でも解体できます。

- ⑥写真6のように、レバーホイスト(φ75～300：0.5tf以上、φ350～450：1tf以上)で解体器具を管体に固定します。レバーホイストの鎖長さが短い場合は、写真7のように継ぎ足しチェーンを用いて鎖長さを長くして固定します。

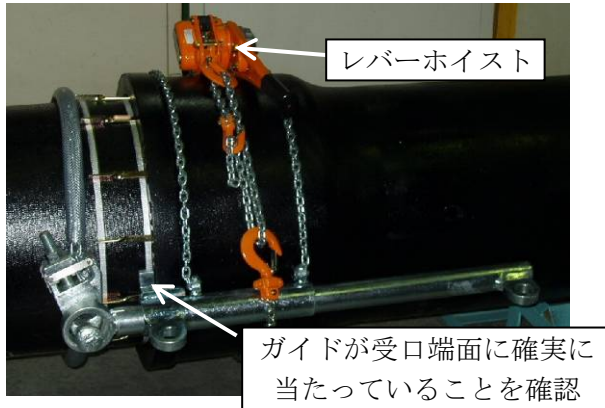


写真6 解体器具の固定

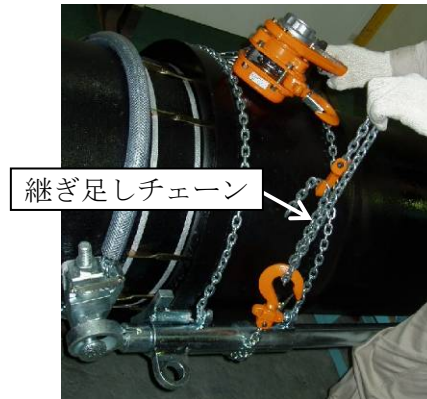


写真7 継ぎ足しチェーン
(レバーホイストの鎖長さが短い場合)

- ⑦写真8のように、レバーホイスト(φ75～300：1tf以上、φ350～450：2tf以上)をセットし、レバーホイストの柄を左右交互に操作して解体します。

注) 負荷が大きいときは、解体矢が正しく打ち込まれていないので、解体矢をチェックして下さい。(過大な負荷をかけると、解体器具またはレバーホイストが破損し、事故につながる恐れがあります)

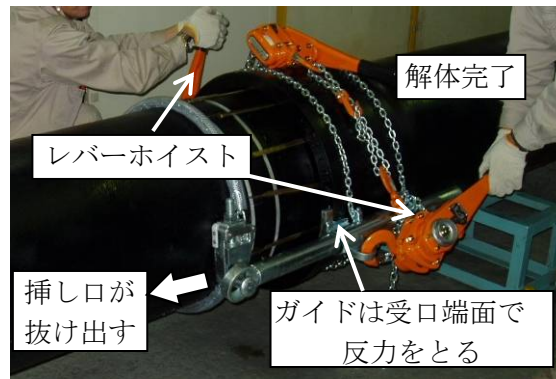


写真8 解体

2.2 異形管の解体

1) 直管受口ー異形管挿し口

直管の解体と同様に(2.1 参照)、写真9～写真12のように解体します。

(解体矢は異形管用解体矢(短い方)を使用して下さい。)

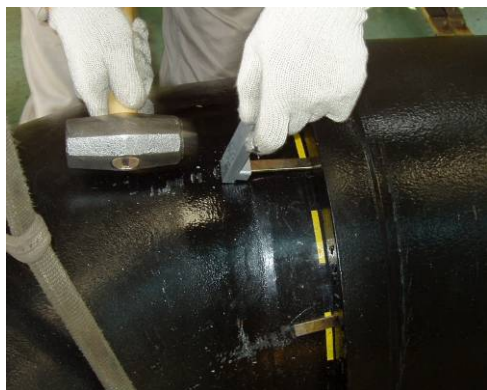


写真9 解体矢の打ち込み



写真10 接合器具のセット



写真11 解体



写真12 解体完了

2) 異形管受口ー異形管挿し口

①φ250以下の場合：“2.2 1) 直管受口ー異形管挿し口”と同様の手順で解体して下さい。

②φ300以上の場合：メカニカル継手のため、本解体器具は使用しません。

株式会社クボタ建設 関連商品営業部

〒273-0018

千葉県船橋市栄町 2-16-1

TEL : 047-401-5003

FAX : 047-401-5004

〒660-0095

兵庫県尼崎市大浜町 2-26

TEL : 06-6415-2018

FAX : 06-6415-2014